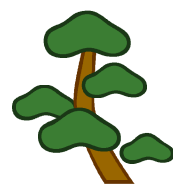


松風だより



令和3年10月27日

花巻市立南城小学校 文責：高橋 彰

宮沢賢治の世界を一生懸命表現

10月23日(土)、2年ぶり(昨年度は新型コロナウイルス感染防止のためやむなく中止)となる『ポラン学習発表会』を開催しました。ポラン学習発表会は、昭和52年に全校集会活動として「風の又三郎」の劇や「雨ニモマケズ」の暗唱、「精神歌」と「星めぐりの歌」の合唱等を発表してから、45年という長い歴史を持つ南城小学校の誇りともいえるべき行事であり、今回で44度目の開催となりました。

今年の発表会に向けた児童会のテーマは「伝えよう 賢治先生の思い」、サブテーマは～協力して成功させよう～でした。前半の部(1, 3, 5年)は5年生が進行や大道具準備等係活動を担い、後半の部(2, 4, 6年)は6年生が運営の役割を果たしました。また、6年生は会場準備や後片付け等でも積極的に働き、最学年として発表会の成功に向け、力を尽くしてくれました。開会の言葉を担当した1年生も子どもらしい元気な呼びかけで、発表会のはじまりを宣言しました。そして各学年の発表は、どの子も練習の成果を存分に発揮し、魅力あふれる豊かな演技等で宮沢賢治の独特の世界を表現しました。みんなが協力して素敵な発表会を作り上げ、児童会のテーマを実現しました。

1年生は「双子の星」を表現しました。2つの場面に分けて発表しました。1つ目は死にそうなほどの大喧嘩をしたおおがらすとさそりをいさめ、誰もが仲良く生きていってほしいという賢治の思いをチュンセ童子とポウセ童子を通して伝えました。2つめは、乱暴なほうきぼしに騙され、海の底に落とされたチュンセとポウセが海蛇の王によって助けられ、天に戻してもらおうお話を演じながら、ヒトデに変えられてしまった元星たちや罰でなまこにされてしまうほうきぼしを許してあげようという優しい思いを伝えました。どの子も大きな声で堂々と台詞を言い、初めてのポラン学習発表会でありながら、トップバッターとして立派に演じ切りました。



2年生は「どんぐりと山猫」を発表しました。一番立派などんぐりはどんだどんぐりで、それは誰かというもめ事で3日も続いている裁判。うまく収める判決がわからず困っている山猫の裁判長に呼び出された一郎が、とぼけたそれでいて気のきいた言い訳によってどんぐりたちを黙らせるという賢治のデクノボー観につながるユーモアあふれるお話を歯切れのいい台詞と大きくてわかりやすい演技で表現しました。最後にダンスを交えながら「手のひらを太陽に」を明るく、楽そうに歌いました。2年生にとっても今回が初めてのポラン学習発表会だったのですが、どの子も役に成り切り、完成度の高い充実した発表になりました。

3年生は「風の又三郎」を発表しました。夏休み明けに北海道から転校してきた三郎を風の神様の子又三郎と信じる級友たち。三郎と一緒に過ごす中で、いつも突然強風が吹いて不思議な出来事が起こります。そして、二百十日(9月12日)がくるとともに級友の前から姿を消し、三郎はまた転校していってしまうのでした。そんな三郎との短い夏の終わりの物語をかけ合いの演技でテンポよく表現しました。このポラン学習発表会の起こりともいえる45年前の全校による劇で発表した宮沢賢治の代表的な童話を3年生なりに、明るく、それでいてちょっぴり寂しさも漂う劇に作り上げました。





4年生は“心を一つに”というめあてをもって合唱に取り組みました。宮沢賢治が作った「ポラーノの広場のうた」と「大切なもの」そして「フェイス」の3曲を披露しました。1学期後半から練習してきましたが、市内音楽発表会の中止が決定し、賢治詩碑を会場に9月21日に行われるはずの『賢治祭』が今年も取りやめになるなど合唱発表の場はなくなっていきました。それでも子どもたちは、ポラン学習発表会で自分たちの歌声を響かせよう、美しいハーモニーを作り上げようと心を合わせて練習に励みました。歌う子どもたちのバックに映像で一人一人の「大切なもの」も伝えました。4年生の真剣に歌う姿に、学年としての団結を感じました。

5年生は「注文の多い料理店」を発表しました。はじめに宮沢賢治の人生について紹介し、「雪渡り」や「やまなし」「セロ弾きのゴーシュ」等も交えながら、自然を壊す“山荒らし”としてのハンター登場につなげました。東京から狩りにやってきた金持ちで自分勝手な二人の紳士（ハンター）が山奥に誘い込まれ、おいしい料理にありつけると思った料理店で、山猫たちに逆に料理されそうになりやりこまれてしまうというお話をユーモアと迫力ある演技で作り上げました。賢治が作品に込めた命や自然の尊さと厳しさが伝わってくる発表でした。前半の部の進行や準備等の係活動も行い、発表会運営にも力を発揮した姿に高学年としての頼もしさも感じました。



6年生は「よだかの星」を発表しました。劇中の効果音もリコーダーをはじめ、様々なものを使って自分たちで作り出し、プロジェクターで映し出した数々のバック絵も分担して描きました。色とりどりの凝った衣装も手作りで準備しました。長い台詞もただ暗記するだけでなく、心を込めて会場全体に届けました。一人一人の役割は様々でも、誰もが一生懸命自分の持てる力を発揮しました。姿が醜く、嫌われていても、最後は夜空に輝く星になる、そんな心の美しいよだかの悲しみと切ない願いを6年生全員で作り上げた発表でした。演技に引き込まれ、涙があふれそうになるほど感情移入しながら見ていました。どの学年にもいえることですが、特に6年生は水曜日（20日）の校内発表のときよりも数段完成度が上がっていました。卒業の年に学年全員で感動を共有することができた6年生の満足したような表情が素敵でした。

子どもたちはもちろん、励ましながらずっと指導し続けてきた担任、また各学年に入って様々な支援をしてきた担任外の先生たち、イベントスタッフのように客席一つ一つのアルコール消毒をはじめ、新型コロナウイルス対策等裏方に努めた職員等、本当に南城小学校が一丸となって作り上げたポラン学習発表会でした。この取り組みそのものを誇りに思います。ただし残念だったのは、マスクを外させて子どもたちの素敵な表情をご覧いただきたかったのですが、それができなかったことと、参観者の人数制限によって家族や地域の方々にも広く紹介できなかったことです。（代わりにDVD等の希望販売を準備しましたが）当日はこの秋一番の寒さでしたが、来校いただき、静かに参観いただきましたご家族の皆様、本当にありがとうございました。

新しい職員を紹介いたします！



10月18日（月）から、吉田ひろみ先生が「ふれあい共有推進員」として本校に配属となりました。吉田先生は長年にわたり、養護教諭として花巻市内はもとより多くの小中学校で勤務され、保健室経営とともに児童・生徒の健康教育に努めてこられた先生です、早速、1・2年生といちよう学級の子どもの学習支援に入ってください。子どもたち一人一人に寄り添いながら、温かく優しい笑顔でふれあい、支えています。「これから、どうぞよろしくお願ひします。」

